

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 広島県立御調高等学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
所在地 〒 722 - 0341
広島県尾道市御調町神204-2
E-mail mitsugi-h@hiroshima-c.ed.jp
Website <http://www.mitsugi-h.hiroshima-c.ed.jp/>
児童生徒数：男子 114 名 女子 92 名 合計 206 名
児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（地域活性化）

3. 活動内容



(1) 1年間の主な活動内容

① 国際交流 ～姉妹校（中華民国新北市立秀峰高級中学）との交流に係る取組～

月	日	曜日	交流内容
5	18	水	留学生とホストファミリーとのWeb会議
6	7	火	留学生（14名）来日（御調町内のホストファミリー宅へ）
	8	水	留学生歓迎式，全体交流会
	9	木	留学生 宮島，平和記念資料館，広島城見学
	10	金	中国語講師（尾道市内在住）を招き，留学生を講師として，1年次生対象の中国語講座を2時間開催
	11	土	第16回御調中高国際交流セミナーの開催 姉妹校留学生・尾道市内ALT・尾道市内高等学校への留学生及び御調中学校生・御調高校生による書道体験や柿渋染め体験などの日本文化体験ワークショップや台湾料理や巻き寿司の調理実習
	13	月	連携型中高一貫教育校である尾道市立御調中学校へ留学生が1日訪問（茶道鑑賞，華道体験，給食体験，留学生による中学生への台湾文化紹介）
	12	火	留学生が御調高校の授業へ参加
	16	木	2年次生フード選択者と留学生が台湾料理調理体験 姉妹校引率教員来日
	17	金	つた祭（各クラスの合唱祭へ留学生も参加）
	18	土	つた祭への参加，姉妹校引率教員とホストファミリー対面
19	日	留学生，姉妹校引率教員が帰国	
11	17	木	2年次生が台湾修学旅行に向けて，2時間の中国語講座を開催
	26	日	本校1年次生が台湾の姉妹校へ14日間の短期留学（H24より3年目）
12	5	月	2年次生が台湾修学旅行で姉妹校を訪問し，九份観光，天燈上げを体験し，交流

○成果

平成24年に姉妹校提携を締結以来，交流は4年目となった。初来日時には，留学生とどう接してよいか困惑していた生徒も，年々積極的に交流をするようになっていく。交流をきっかけに，台湾語を習い始める生徒や，卒業後に台湾の大学への進学を考えている生徒もでてきた。

交流内容も，生徒主体で交流内容を考え，生徒が運営するなど，生徒主体の交流の機会を設定することができた。また，高校だけでなく連携型中高一貫校である御調中学校への訪問により，一層交流が深まった。両校の生徒が互いの文化や言語の壁を越えて，人と人がつながることの意義を深く理解する段階に達している。

●課題

交流内容のレベルを高めるために，平生からweb会議システムを活用して国境を越えたプロジェクトに取り組むなど，授業での交流内容について両校の教員が頻りに連携を図り，実践することで生徒の成長を促したいと考えている。

ホストファミリーとの web 会議



御調中学校への留学生訪問



授業への参加



② 平和・人権 ～宮城県立気仙沼高等学校への訪問及び気仙沼市役所への訪問、
3. 1 1 追悼式への参加～

月	日	曜日	内 容
8	3	水	御調高校 3 年次生（3 名）と教員（3 名）で宮城県を訪問 東日本大震災の被災地を視察（女川の新商店街，大川小学校，防災無線，仮設住宅など沿岸部の被災地と復興現場を視察）
	4	木	午前中：宮城県気仙沼高等学校を訪問し，生徒会執行部生徒と本校生徒が交流。被災時の様子や生徒の気持ちを伺った。本校生徒は，広島 の原爆投下時の被害やその後の復興について語った。 午後：気仙沼市役所（復興支援課）を訪問し，震災直後の町の様子から， 現在までの取組と課題点についてお話を伺った。
9	15	木	気仙沼を訪問した 3 名が広島県教育委員会教育長に対して報告を行 った。
3	10	金	宮城県気仙沼高等学校と本校 2 年次生（2 名）と教員（2 名）が訪問し， 校長先生から講話を伺う。
	11	土	平成 29 年気仙沼東日本大震災追悼式に本校生徒（2 名）と教員（2 名） が参列した。

○成果

東日本大震災から時間が経過し，震災を風化させないためにも，同世代に絆が生まれるような感情の交流は大変意義深いものとなっている。生徒が一人一台 iPad を使い，現状を記録した。さらには，その記録を分かり易くまとめ，校内や

連携型中高一貫校である御調中学校や地域の方に発表することができた。次学年が追悼式に参列する取組により、体験を伝えるという継続性が校内で確立されつつある。

「気仙沼訪問前の生徒の一枚ポートフォリオより（一部抜粋）」

生徒A

（訪問前）

自分と同じ年齢の人たちが今、何を思っているのかを知りたい。実際にどのくらい復興しているのか自分の目で確かめたい。

（訪問1日目）

沿岸部ではまだまだ工事が進められていて、ダンプカーなどの交通量が多かった。大川小学校は、校舎がむき出しの状態、当時の惨状がそのまま、涙が溢れた。

（訪問2日目）

復興とは、壊れたものが直ったり、人口が回復したりして終わりではない。町が震災前から抱えていた問題を解決していくことが本当の復興。案内をしてくださった先生の家の前にも遺体が流れていたという話を聞いて、テレビではわからない本当の状況が分かった。

（訪問後）

訪問前に事前に調べてみると復興はほぼ100%と書いてあるものもあったが、市役所の方の話や実際に見てまだまだだということが分かった。

生徒B

（訪問前）

まだ重たい空気が残っていて、見た目は直りかけているけれど、人の心の傷は癒えていないのではないだろうか。

（訪問1日目）

復興している所と全く復興がすすんでいないところの差が大きいと感じました。がれきはほとんど撤去されていて、新地やかさ上げされている途中でまだまだ人が生活できる状況ではないのだと思いました。元のような暮らしができるにはまだ時間が必要だと感じました。広島に住むわたしたちも他人事だと思わず、地震の怖さを知り、まわりに伝えていかなければいけないと思います。

（訪問2日目）

気仙沼高校の生徒さんは大人だと思いました。実際に被害を受けて、思い出したくないと思うのに、私たちに伝えようと沢山話してくれて、震災当時の状況が目には浮かびました。海の堤防は作らないほうがいいなど、自分の地域のありのままを考えて、自分の意見を持ってすごいと思いました。つらい思いをしたのに、今はしっかり生きよう、命を大切にしよう、町を早く取り戻したいなど、まえを向いて歩いているのだと思いました。これからより良い町づくりをしていくためには、人と人とがつながって社会を作っていくといけないのだと感じられました。

（訪問後）

人の気持ちは強く、元の地域に戻したくて、自分の町を守り続けている気持ちが強いなと思いました。

生徒C

(訪問後)

気仙沼の人たちは、震災後もその地に住み、復興に取り組む姿はすごいと思った。震災後は海を恐れていると思っていた。しかし、気仙沼高校の人との会話で「海が好きだし、風景も変わるから防波堤を作らない方がいい。」と言っていた。また、気仙沼市役所での話でも、水産業を中心に復興を進めていたり、「海と生きる」という言葉も見聞きした。色々な人から話を聞いて、気仙沼の人たちにとって、海という存在は、とても大きなものなのだとということが分かった。また、気仙沼市の復興の姿勢と“海で生きる”ということは御調の活性化の活動にも生かせると思った。

●課題

震災を風化させないことは、広島原爆投下の記憶を風化させず伝えていく活動と同じである。そのためには、生徒自身が、ヒロシマの歴史を十分に理解したり、高齢化する被爆者の方々から体験を聞く機会を毎年設定したりして、生徒の言葉でヒロシマを語り継ぐ力を教育現場で育成することが必要である。



気仙沼市役所訪問時の様子



気仙沼東日本大震災追悼式に参列



宮城県立気仙沼高等学校を訪問し、被爆アオギリ2世の苗を贈呈

③ その他 ～総合的な学習の時間（地域活性化）と各教科をつなぐ実践～

総合的な学習の時間での地域活性化の取組を通して、持続可能な社会作りの担い手として必要な力を生徒に育成してきた。その力とは次のとおりである。

- | | |
|-----------------|--------------|
| ①批判的に考える力 | ⑤他者と協力する態度 |
| ②未来を予測して計画を立てる力 | ⑥つながりを尊重する態度 |
| ③多面的・総合的に考える力 | ⑦進んで参加する態度 |
| ④コミュニケーションを行う力 | |

これらの力を育成するため、地元の道の駅等と連携するとともに、地域活性化を推進するキャラクター「ミツギレンジャー」を作成し、それを活用した活性化案を考案し、実践している。これまで、本校と道の駅との連携が高く評価され、道の駅クロスロードみつぎが国土交通省から地域活性化の拠点を形成する重点道

の駅に選出される等、一定の成果を上げている。また、現在市役所のまちおこし課とも連携して、活動を継続しているところである。

一方、昨年度までは、活動を進めていく中で、生徒が考案する活性化案で、例えば地域のPR動画を作成して広くアピールしたり、考案した新たなデザインを手書以外の手法で実体化したりするなど、生徒が自ら考えた案を発信したいと思うものもある。本校には生徒用のパソコンは情報教室に設置されているものだけであり、動画を作成して編集するといったことを簡単に行うことができる環境がなかった。また、タブレット端末などのモバイル端末もなく、生徒がICTを積極的に活用するといった環境にはなかった。デジタルコンテンツを作成するという計画もあったが、ICT環境の不足により実践できなかった。これらの課題を解決し、ICT環境を充実させることで、生徒の活動の幅を広げ、特に発信力を高める活動に取り組みせることで、上記の7つの能力・態度を更に育成していきたいと考え、実践を積み重ねている。これらのことを踏まえ、今年度は、パナソニック教育財団平成28年度(第42回)実践研究助成を活用し、各グループがiPad mini(5台)やiPad Pro8(1台)を使い、各グループの取組の記録、発表、PR動画の作製などを行い、これまで課題であった情報発信に重点をおいて活動した。

実践の具体的な活動内容

御調地域の強みとして3年前から生徒が取り上げている御調の5宝(福祉・医療、ソフトボール、文化・伝統、自然、食物)について、その魅力を活かしたプランを考えている。情報収集や集めた資料・データの整理分析をさせ、具体的な活動案を考えさせる。以前から地元の道の駅クロスロードみつぎがその案の実践の場となっているが、道の駅だけでなく、地域外に発信していくことを意識させて取り寄せた。特にICT機器を活用した具体的な実践として、次の点を意識して行った。

①ICTの活用

・フィールドワークにおけるICTの活用

本校の活動では、地域の実態分析のために地元の人への聞き取りや実地での検証を行ってきた。ICT機器を活用することで、地元の人々に対するインタビューを撮影して残すことや、写真を撮影して編集することができた。

・デジタルコンテンツの作成

生徒が考案したミツギレンジャー等のデザインはすべて手書きで作成されていた。そのため、その絵を活用して配布物を作成しようとした際に、同じ絵をもう一度書いたり、原画をコピーして作成したりしていた。より汎用性の高いデザイン画を作成するために、ICT機器を利用して描画ソフトを用いながらデザインを作り、活動の幅を広げている。

・作成した動画を用いた活性化プランの披露

地元の道の駅等で活性化案を実践してきているが、活動の概要や目的、その背景についてわかりやすい動画を作成することや、生徒の考案した活性化案について、地元の人々や役所の方々、企業の人々に対するPR動画を作成した。そのことにより、活性化に携わる高校生以外の人々を巻き込んでいく取組が具体化できた。

②各グループの今年度の主な取組

グループ名	取組内容
福祉・医療	<ul style="list-style-type: none"> 認知症キャラバンによる講座の受講 御調健康福祉展でオレオレ詐欺防止を啓発する劇をミツギレンジャーが披露
ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> 町内の全小学校でティーバッティング体験 インターハイPR動画制作
文化・伝統	<ul style="list-style-type: none"> 御調の特産である柿農家と連携して、柿酢や柿渋を使った商品開発の考案
自然	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発：御調の竹材を活用した観葉植物の作製と配付 耕作放棄地：昨年度整備した耕作放棄地を再整備し、土地の所有者さんと協力して黒にんにく、トウモロコシ等を栽培
食物	<ul style="list-style-type: none"> 尾道熱帯植物開発センターと連携し、尾道野菜パイアを学校で栽培 尾道さつき会すだちの家とコラボし、パイヤラスクのレシピを開発し限定販売 尾道市給食センターと連携を図り、パイヤをつかったクリームシチューのレシピを提案

・各グループ年間2回ずつ参加
道の駅クロスロードみつぎにおいて、毎月第3日曜日に開催される「ありがとうデー」に参加

・地域活性化を軸とした指導案を全教員が作成し、授業を実施した。ESD年間計画指導表により、全教員がどの時期にどの単元で実施するのかを明確にし、相互参観し、各教科で協議した。また、広島県教育委員会発行の広報誌「くりっぷ」平成28年4月号に本校の課題発見・解決学習と、各教科を横断した教育実践が掲載された。また、広島県教育の日フォーラムにおいて、本校の生徒2名が県の代表として取組について発表し、パネルディスカッションに参加した。

「広島県教育委員会発行の広報誌「くりっぷ」平成28年4月号」より抜粋

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）